

「加害者治療議論を」

ストーカー問題 研究会始まる

ストーカー事件の深刻化を防ぐため、加害者のカウンセリングや治療を考える研究会が15日、都内で始まった。会を主宰するストーカー殺人事件の被害者遺族が「加害者の逮捕だけでは被害は無くない。治療

に効果があるか議論してほしい」と訴えた。

研究会は、神奈川県逗子市で2012年、元交際相手の男に刺殺された三好梨絵さん（当時33）の兄（43）が呼びかけて発足。研究者ら30人が参加する。梨絵さ

んの事件で、加害者の男は脅迫罪で有罪となった後、行動をエスカレートさせ、殺人につながった。この日の初会合で兄は「加害者らが相談できるホットラインが警察の外部に必要だ」と提言した。

研究会は今後、加害者治療に先進的に取り組む海外の事情についても議論。来秋まで計6回の議論を交わし、提言発表を目指す。

100人以上のストーカー加害者の治療を手がけてきた精神科医の福井裕輝さんによると、英国や豪州では保護観察官、精神科医らが、治療を含む加害者への対処法を検討する仕組みがあるという。福井さんは「精神的に苦しい状況を抱えながら犯行に及ぶ加害者も多い。日本でも治療動機は十分にある」と話した。

（永田大）